

### Ⅲ 研究の内容

#### 1 「もの」とは

子どもたちは積極的に身近な「もの」とかかわり遊びを楽しんでいる。初めての園生活となる年少児は、様々な「もの」と新しく出合うことになる。その際、保育者は、子どもたちと「もの」との出合い方について計画していく。

子どもたちが水に親しむのによい季節となった頃、年長児のジュース屋さんごっこに興味を示す姿が見られた。子どもたちが興味をもっている姿を見取り、年長児がジュースに使っていた花紙と子どもたちとの出合いを計画した。この出合いを通して、子どもたちは花紙という素材や身近な水が花紙によって変化することを知ることができた。

本研究では、「もの」を保育者が教育的価値を含ませながら、子どもたちが自ら興味・関心をもって活動に取り組むことができるように、意図的・計画的に構成された遊具や用具、人工的な素材と捉え、研究を進めていく。

#### 2 子どもが「もの」とかかわる姿とは

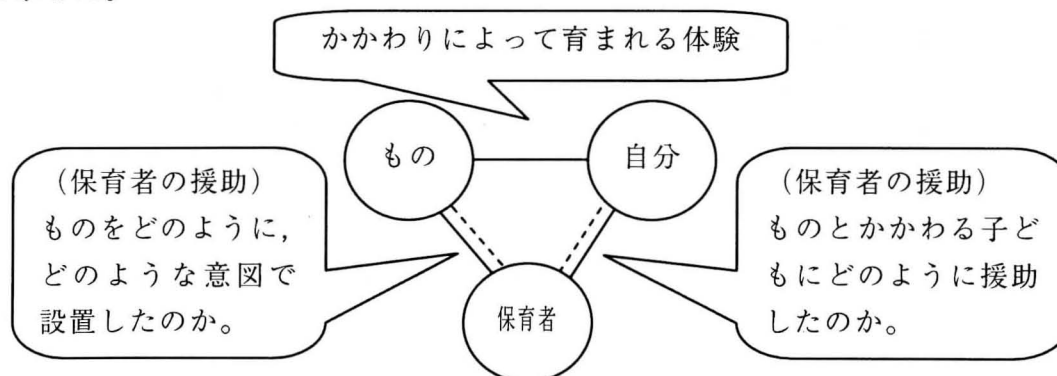
子どもたちは、保育者が設置した「もの」に初めて出合い、初めて触れることに喜びを感じたり、「もの」に触れることで様々なことに気付いたり、これまでの経験を生かしてさらに工夫したかかわりをしたりしている。

私たちは、子どもが「もの」とかかわる姿を大きく次のようにまとめた。

- ① 新しい「もの」と出合い、初めてかかわる姿
  - ② 「もの」を遊びに取り入れながら、その特性に気付いていく姿
  - ③ これまでの経験をもとに、「もの」の特性を生かして工夫して遊ぶ姿

それぞれの段階で、子どもたちは「もの」とのかかわりを通して、様々な体験を獲得し、自分らしさを発揮していると考える。

私たちは「もの」とかかわる子どもの姿をそこに一緒にかかわる保育者を含め、「もの」「自分（子ども）」「保育者」の三者の関係で捉えることができるのではないかと考えた。三者の関係を図のように捉え、実線（——）と点線（-----）で結び、関係を表してみた。実線は、直接かかわっている状態を表し、点線は、間接的にかかわっている状態を表している。また、吹き出しを使って、実線や点線の関係の中で保育者がどのような援助をしているのか、「もの」とのかかわりによって育まれる体験について示した。




花紙を使って遊ぶ子どもの姿の事例に沿って三者の関係を紹介する。

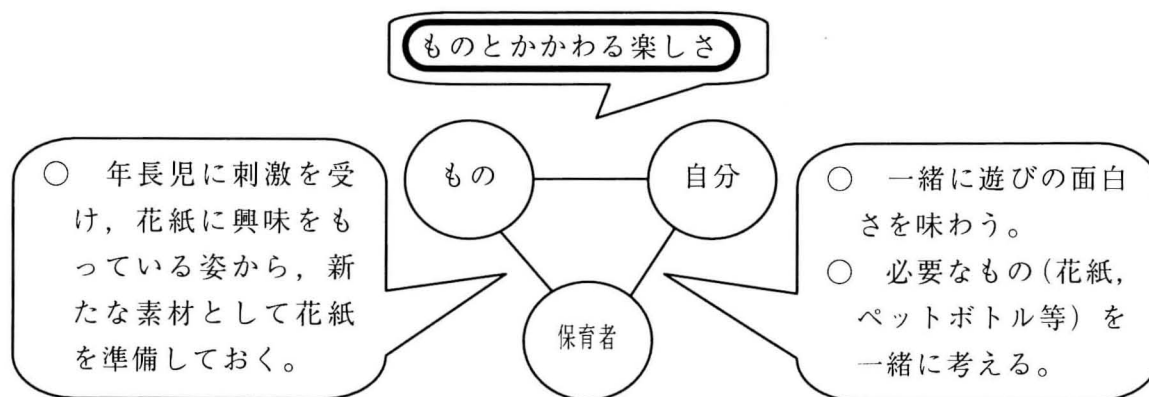
① 新しい「もの」と出会い、初めてかかわる姿

対象児 年少児

平成20年6月

子どもの姿	保育者の援助
<p>○ 年長児がしているジュース屋さんに出掛け、花紙を知る。</p> <p>A「先生、うみ（年長）組さんのジュースをつくりたい」</p> <p>保「いいよ、つくってみようか」</p> <p>A「（花紙を指差して）これ、ちょうだい。これを入れてたの」</p> <p>保「よく見ていたね。これは花紙って言うんだよ」</p> <p>A「うん、は・な・が・み」</p> <p>○ ペットボトルに花紙を入れ、水を加えて遊ぶ。</p>	<p>○ 年長児のジュース屋さんがきっかけとなり花紙に初めて出会い、興味をもった姿を受け、一緒に花紙に触れながら、「はながみ」という名前を確認した。</p>  <p>○ 年長児がやっていたようにやってみたいという気持ちを受け止め、一人一人がたっぷりと遊べるように、ペットボトル、蓋、花紙を用意した。</p>

この場面での三者の関係を図に表すと次のようになる。図は、保育者が直接的に「自分（子ども）」、「もの」とかかわっている段階を表している。



初めての園生活となる年少児にとって、年長児や年中児の遊びからの刺激はとて多い。年長児の開くジュース屋さんで保育者と一緒に出掛けたことをきっかけに、花紙と出合った。初めて花紙を遊びで扱う子どもたちは、年長児がやっていたようにペットボトルと水を使って、花紙を扱う喜びを味わっていた。この事例では、保育者は子どもと一緒に「もの」とかかわりながら、遊びを楽しむ援助を心掛けた。

次は、花紙と出会い、初めてかかわった姿が、次第に花紙の特性に気付いていく姿へと変化していった事例である。

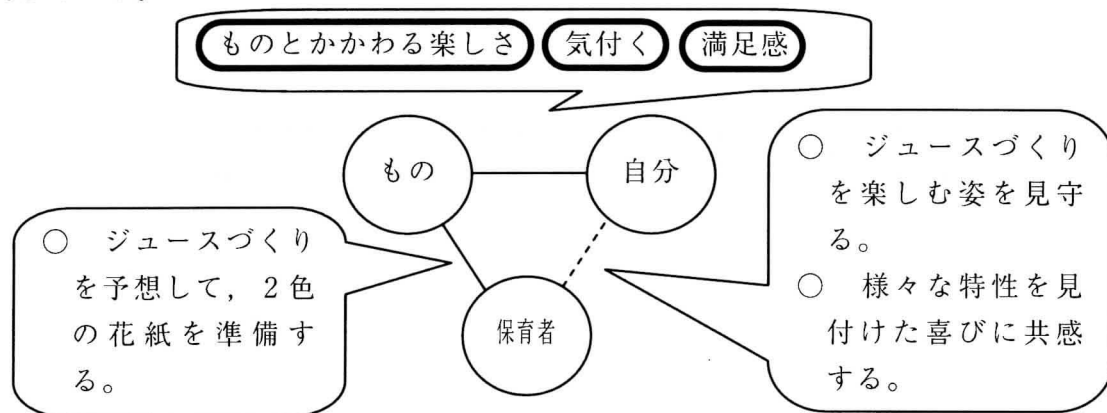
②「もの」を遊びに取り入れながら，その特性に気付いていく姿

対象児 年少児

平成20年6月

子どもの姿	保育者の援助
<p>○ 花紙を使ってジュースをつくる。 B「先生見て。ジュース！」 保「うわあ，おいしそうなジュースができたね。どうやってつくったの？」 B「(ペットボトルを振りながら) こうしたの」</p> <p>○ 違った色の花紙を組み合わせてジュースをつくる。 C「赤と白を入れたのに，白がなくなった」 保「不思議だね」</p>	<p>○ 花紙を製作コーナーに設置し，自由に使うことができるようにした。</p> <p>○ 花紙に水を加えるだけでなく，水を加えて振ることで，花紙が水に溶けジュースらしくなることに気付いたB児の発見を共に喜ぶようにした。</p> <p>○ 水に溶けるという花紙の特性に気付き，ジュースづくりを楽しむ姿を見守り，色の組み合わせによって色が変わる不思議さを感じる姿に共感するようにした。</p>

下の図は，子どもが主体的に「もの」にかかわる中で様々な特性に気付いて遊びを楽しむ，「保育者」と「自分（子ども）」が少しずつ間接的なかかわりになってきている段階を表している。




花紙を自分の好きな遊びの中で使うことができるようになり，子どもたちはジュースづくりを繰り返し楽しんでいた。ただ，ペットボトルに花紙と水を入れるだけでなく，入れた後に蓋を閉め，ペットボトルを振ることによって，年長児がつくっていたジュースになることに気付いていった。また，色を組み合わせることによって，色が変わることも発見した。この事例での保育者は，自分で主体的に「もの」とかかわる子どもの姿を見守りながら，かかわる中で「もの」の特性に気付く子どもの姿を大切にするようにした。

3つ目に様々な特性に気付いていった子どもたちが、これまでの経験をもとに遊びを工夫していく事例を紹介する。

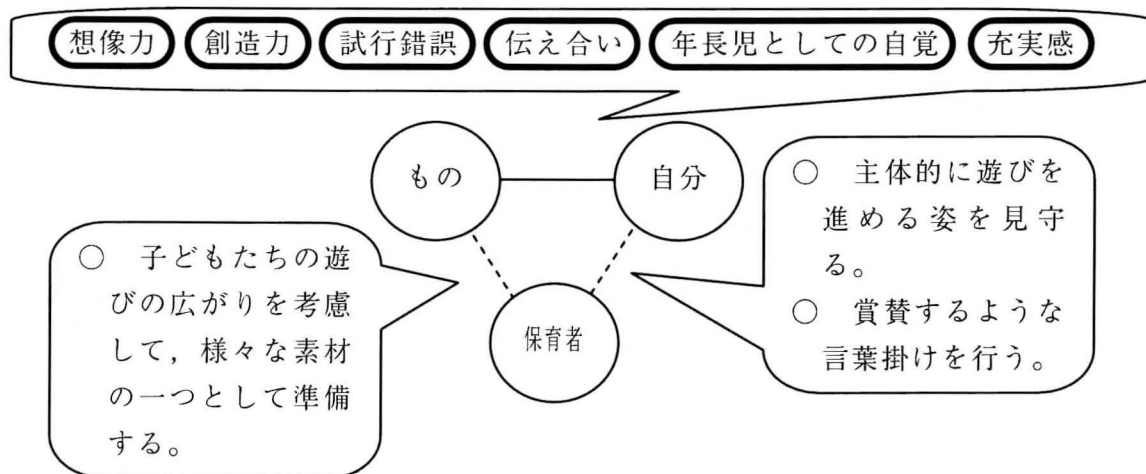
### ③ これまでの経験をもとに、「もの」の特性を生かして工夫して遊ぶ姿

対象児 年長児

平成20年6月

子どもの姿	保育者の援助
<p>○ ジュース屋さんを開く。</p> <p>A「ジュースください」</p> <p>D「オレンジジュースとメロン、イチゴもありますよ」</p> <p>A「オレンジください」</p> <p>D「はいどうぞ」</p> <p>E「お客さんがいっぱい忙しい！」</p> <p>保「お客さんがいっぱいで大繁盛だね」</p>	<p>○ 自分たちがつくったジュースを使ってジュース屋さんを開き、お客さんとのやりとりを楽しむ姿を見守ったり、保育者もお客となって参加したりした。</p> 

年長児になると、子どもが自ら「もの」を選んで遊びに取り入れる姿が多く見られるようになる。これは、これまでの経験から「もの」の特性を知り、「もの」の特性を生かして工夫するようになるからであると考えられる。このように、自分のイメージをもちながら工夫して遊びを進めることができるようになった段階を図に表すと次のようになる。



このジュース屋さんごっこでは、これまで花紙を使ってたくさんのジュースをつくった経験をもとに、メロンやオレンジ、イチゴなどといったイメージをもってジュースをつくり、つくったものを使って遊びを工夫しているのだろう。この状態にある子どもたちに対して保育者は、子どもたちが主体的に遊びを進める姿を大切にしながら、さらに遊びを広げていけるような援助を探っていくことが大切であると考えられる。

子どもたちの「もの」とのかかわりは、先に述べたように①→②→③と、段階的に進んでいくと考える。これと同時に、年少→年中→年長と、「もの」とのかかわりが段階的に進んでいくとは限らないことを確認しておきたい。年長児でも、新しい「もの」と出会い、①の段階で「もの」「保育者」とかかわることもあり、年少児でも「もの」とのかかわりが③の段階にあることもある。詳しくは、後の研究の実際「事例研究から」の事例と合わせながら述べていくこととする。

### 3 研究の実際

本園では、研究保育・保育研究、事例研究、子どもの遊びの変化の分析等を通して、研究を進めてきた。今年度は、子どもたちがかかわっている「他」の中の「もの」に視点を当て、保育者の援助の在り方、環境構成の工夫について触れながら、研究テーマに迫ることとする。

#### (1) 実態調査から

子どもたちがかかわる「もの」に注目して研究を進めるにあたり、幼稚園で設置している「もの」と家庭ではどのくらいかかわっているのか、どのようなかかわり方をしているのかについて捉えるために実態調査を行った。また、アンケートに回答することで、保護者が、改めて我が子の「もの」とかかわる姿を振り返ることができるのではないかと考えた。

5月に実施した実態調査をまとめてみると、幼稚園でかかわっている「もの」と家庭でもかかわっている子どもが多いことが分かった。(詳しくは研究誌の参考資料にて紹介) また、年少から年長になるにつれて、家庭でかかわる「もの」の種類が増え、かかわり方も発展していくことが分かった。例えば、空き箱とのかかわり方を見てみると、年少児は空き箱そのものを車やベッドに見立てて遊んでいるのに対し、年中、年長児では空き箱を使ってロボットをつくったり、車や船をつくったりしている。これらの姿は幼稚園でも見られる姿であることから、幼稚園での生活が家庭へもつながっているとと言えるだろう。

2回目に実施した12月の実態調査では、5月と比べてどのように「もの」とのかかわり方が変化したかについて調査した。例えば、年少児A児の実態調査によると、下の表のように、「もの」とのかかわり方が変化したことが分かった。

#### < 5月の実態調査から >

	もの	「もの」とのかかわり方
空き箱・容器類	空き箱	
	ダンボール	
	ペットボトル	2本のペットボトルで楽器のようにして遊ぶ。
	紙コップ	
	紙皿	

## < 12月の実態調査から >

	もの	「もの」とのかかわり方
空き箱・容器類	空き箱	3つをビニールテープやセロハンテープでくっつけて、ピストルや剣をつくるようになった。
	ダンボール	
	ペットボトル	
	紙コップ	
	紙皿	

A児の変化や他の子どもたちの実態調査から、幼稚園での経験が家庭での遊びへ影響を与えていることが分かった。

幼稚園は、家庭での生活では味わえない同年代の友だちとのかかわりや様々な「もの」、「自然」とのかかわりを存分に楽しめる場である。家庭と幼稚園の生活がつながっていることを生かして、さらに「もの」とのかかわりが広がるような援助の在り方を追究していきたい。

## (2) 研究保育・保育研究から

研究を進めるにあたり、研究保育・保育研究を通して全職員で研究内容の理解を深めたり、研究の方向性を確認したりしてきた。大学の先生を講師として招き、研究保育、その後の保育研究の中で研究を深めていった。

研究保育は、○ ビデオ係 ○ 保育者・子どもの言葉の記録係 を設け、保育後の子どもの姿の分析や保育者の援助の在り方の振り返り等に活用するようにした。

次のページからは、研究保育・保育研究後に、その日見られた子どもの姿と、保育者の援助の在り方や理論面での成果と課題をまとめたものである。

### < 表の見方 >

**うお魚 (年見男)**

【子どもの実態】

【保育のねらい】

【内容】

平成20年 8月 2日 (月) 天候: 雨

☆子どもの生活  
※保育者の援助・環境構成の工夫  
(◇人とかかわり, □ものとかかわり, △自然とかかわりの視点から)

○: かかわりによって育まれる体験

【遊びの姿】  
保育の中で見られた子どもの姿と、「人」「もの」「自然」とのかかわりの視点からの保育者の援助・環境構成の工夫をまとめたもの

○: かかわりによって育まれる体験

【環境構成図】  
保育のねらいに沿ったプレイルーム、保育室、園庭の環境構成図

【遊びの価値とつながり】  
この時期の子どもの実態に合った遊びのよさと、今後、子どもたちのどのような姿につながっていくかをまとめたもの

【成果と課題】  
保育者の援助の在り方や理論面での成果と課題



<p>【子どもの実態】</p> <p>幼稚園の生活の仕方も分かり、安心して遊べる場も増え、自分のしたい遊びを見付けられるようになってきた。子どもたちは水遊びやぶらんこ、自然との触れ合いなどしたい遊びを楽しんでいる。</p>	<p>【ねらい】</p> <p>○ 先生や友だちと触れ合いながら水遊びや泡遊びなど自分の好きな遊びを楽しむ。</p> <p>○ 水遊びや固定遊具など全身を使って楽しく遊ぶ。</p> <p>○ 生活の仕方が分かり、生活に必要なことを先生に励まされながら自分でもしようとする。</p>	<p>【内容】</p> <p>○ 水の感触を味わいながら、水遊びを楽しむ。</p> <p>○ 同じ遊びをしている友だちに気付き、一緒にする。</p> <p>○ 全身で遊びを楽しみ、自分の思いを表現しようとする。</p>
---	--	---

☆ 子どもの生活 ※ 保育者の援助・環境構成の工夫 (◇ 人とかかわり □ ものとかかわり △ 自然とかかわり) □ かかわりによって育まれる体験

### 【つくって遊ぶ】

☆ 赤と白の花紙を重ねて「リボン」、ペットボトルを組み合わせて「鉄砲」、ストローに平テープをつけて「魔法の杖」など、いろいろな素材を使って、自分がつくりたいものをつくっていた。

想像力 試行錯誤 満足感 自立心

- 「～したい」という思いを実現するために必要な素材や用具などを子どもたちが使いやすい場所に用意しておいた。
- はさみやセロハンテープなど安全面に留意して扱うように言葉を掛けた。

### 【自然と触れ合う】

- ☆ 保育室で飼っている金魚やかたつむり、スズムシの様子を見たり、えさをあげたりしていた。
- ☆ 育てているアサガオやさつまいもの様子を見たり、水を掛けたりしていた。
- ☆ 「動いた!」「(葉っぱが)ちくちくする」「(スズムシが)こうして鳴いてる」など気付いたことを体や言葉で表現する姿が見られた。

自然への親しみ 気付く 感動体験

- △ 生き物を見たり、触れたりしたことを共に喜び、親しみをもって接することができるように言葉掛けの工夫をした。
- △ 「かたつむり」や「カブトムシ」など図鑑を飼育ケースの近くに広げておき、いつでも見ることができるようにした。



こうしたら(角が)なくなった!

### 【環境構成】

(プレイルーム)

ア: 花紙、平テープ、ストロー、カップ

イ: 空き箱、ペットボトル、絵本

ウ: カセットテープ、ラジカセ、タンブリン、すず、カスタネット

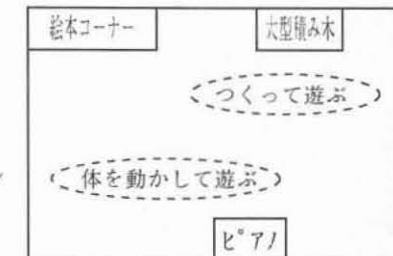
エ: 人形、エプロン、ままごとセット

オ: カブトムシ、スズムシ

カ: アサガオ

キ: 洗面器、バケツ、皿、茶碗、船、汽車、ペットボトル

ク: ペットボトルシャワー、牛乳パックシャワー、水鉄砲、金魚すくい

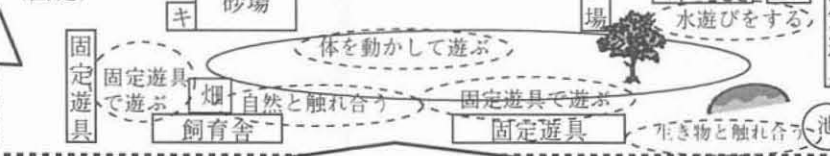


(保育室)



(テラス)

(園庭)



### 【体を動かして遊ぶ】

- ☆ ぶらんこを座って漕いだり、立って漕いだりして楽しんでいた。
- ☆ 「先生、見て!」とぶらんこを漕いでいる様子を先生に見てもらおうとする姿が見られた。

体を動かす楽しさ 自分を出す 人とかかわる楽しさ

- ◇ 「上手に漕いでいるね」「空に届きそうだね」など言葉掛けを工夫して、その姿を受け止め、体を動かすことの気持ちよさに共感するようにした。

先生、見て～!



### 【水遊びをする】

- ☆ 水鉄砲やペットボトルシャワー、金魚すくいなどをして水の感触を味わいながら遊びを楽しんでいた。
- ☆ 的となるペットボトル内の水の量や位置を変えるなど自分なりに試したり、考えたりしてもっと遊びを面白くしようとしていた。
- ☆ 水を噴水や雨、シャワーに見立てたり、カエルや「雨降り熊の子」になったりして楽しむ姿が見られた。
- ☆ 「気持ちいい!」「○○くんと一緒に(水鉄砲飛ば)したら、倒れた!」「噴水みたいでしょう」「カエルさんになりたい」など、自分の感じたことやしたいことを言葉で伝えようとする姿が見られた。

体を動かす楽しさ 自分を出す 想像力 試行錯誤 気付く

感動体験 人とかかわる楽しさ 満足感 達成感



空まで届くかな。



先生、見て～! 噴水みたいでしょう。



釣れた!



気持ちいい～!



- ◇ 保育者も一緒に水遊びに加わり、感触を十分楽しみながら面白さに共感し、水に慣れ親しむことができるようにした。
- 水鉄砲や的、金魚すくい、ペットボトルシャワーなどを用意し、様々なかかわりを楽しみながら、水に親しめるようにした。
- 的の数やペットボトル内の水の量を増やし、遊びの刺激となるようにした。

### 【成果】

- 木からぶら下げたお化けやペットボトルの的、金魚すくい、ペットボトルシャワーなどを用意したことで、子どもたちが集中して遊ぶことができた。
- 年少児なりの「見守る」、「待つ」ことを意識しながら保育に当たること、子どもたちの「～したい」という気持ちや自分の感じたことを体や言葉で表現しようとする姿を見ることができた。
- 「もの」そのもののよさに気付くような言葉掛けを意識して保育に当たることができた。
- 担任、副担任とでかかわる遊びを分担し、保育に当たることによって多くの子どもたちの遊びの様子を把握することができた。

### 【課題】

- 年少児の発達の過程や発達の特徴を踏まえ、一人一人に応じた保育が展開できるよう理論研究、実践研究を進めていきたい。
- 子どもが気付いたことを豊かに表現して自分らしさを発揮していくために、感動体験がより豊かになるよう教材研究を深め、素材の合わせ方を工夫していきたい。
- 豊かに自分を表現することができるように「見守る」「待つ」「言葉で表現すること」などを継続して意識し、援助の工夫に努めていきたい。

### 【遊びの価値とつながり】

この時期は、水遊びを通してその感触や心地よさを味わいながら、夏ならではの開放感ある遊びを楽しめるようにしたい。水鉄砲やペットボトルシャワーなどを使った水遊びでは、水の感触の心地よさを味わえるとともに、的をねらったり、水を掛け合ったりする中で友だちと触れ合える楽しさを味わえる遊びである。一人一人の「～してみたい」「～したい」という思いを丁寧に受け止めながら、友だちとかかわり方を知らせていくことで友だちと一緒に遊ぶことの楽しさが味わえるようにしていきたい。こうした遊びは、豊かな想像力を培うとともに、自分を表現する喜びを味わえるものであり、今後、先生や友だちとかかわりながら好きな遊びを楽しむ姿へとつながっていくものである。

<p>【子どもの実態】</p> <p>進級児、新入園児ともに園生活にも大分慣れ、活動範囲が広がってきている。友だちと誘い合って遊ぶ姿も見られ、互いに名前呼び合ひながら進級児、新入園児混ざって好きな遊びを楽しんでいる。</p>	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 好きな友だちと場所や遊びを共有しながら、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。</li> <li>○ 自分のイメージするものをつくったり、なりきったりして遊ぶ。</li> <li>○ 梅雨期の園庭の草花や生き物に興味をもってかかわろうとする。</li> </ul>	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の思いを友だちに伝えながら、一緒に遊ぶ。</li> <li>○ 様々な素材を組み合わせて自分のイメージするものをつくり、遊びに使う。</li> <li>○ アジサイやカエル、水たまりなどの梅雨期の自然に興味をもつ。</li> </ul>
☆ 子どもの生活	※ 保育者の援助・環境構成の工夫（◇ 人とかかわり □ ものとかかわり △ 自然とかかわり）	○ かかわりによって育まれる体験

【つくって遊ぶ】

- ☆ 空き箱やロールペーパー芯、ペットボトルなどを組み合わせて自分のイメージしたものをつくっていた。
- ☆ 水に絵の具や花紙を溶かして、色水をつくっていた。
- ☆ 花紙を使って様々な飾りをつくっていた。
- ☆ 折り紙の本を見ながら、折り紙を折っていた。

想像力 創造力 試行錯誤 人とかかわる楽しさ 満足感

- ◇ 友だちがつくるものを見ながら、真似をしたり一緒につくってみようとしていたりする姿を見守りながら、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わえるような言葉掛けをするようにした。
- 子どもたちがつくりたいものをつくれるように、様々な素材を十分に準備しておくようにした。
- 色水づくりでは、今までつくったものを残しておくようにしてさらに遊びが深まるように環境を整えた。

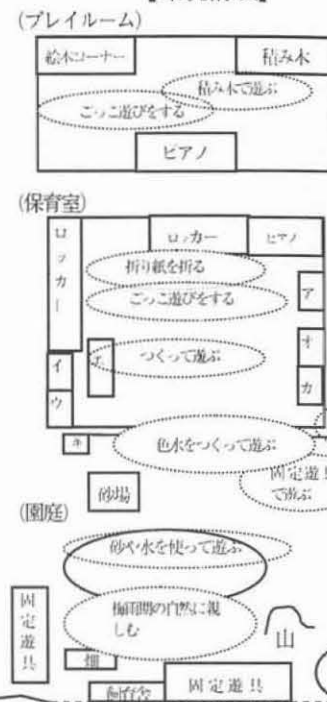


この色とこの色を合わせると・・・

先生、ここをつけたいから持っていて。



【環境構成】



ア 金魚水槽  
イ ソフト積み木  
ウ ままごの道具（スカート、エプロン、ぬいぐるみなど）  
エ セロハンテープ、ペン、ラジカセ、カセットテープ、ブロック  
カ プトムシの幼虫、スズムシ、アゲハの幼虫  
オ カラービニール、ガムテープ、ストロー、新聞紙、花紙、平テープ、画用紙など  
カ 空き箱、牛乳パック、ペットボトル、カップ、紙コップなど  
キ ホウセンカ

【ごっこ遊びをする】

- ☆ 自分でつくったものを使ってヒーローになりきって遊んでいた。
- ☆ 友だちとそれぞれの役割を話し合っ、家族ごっこをたのしんでいた。
- ☆ 自分たちでつくったものを使ってお店屋さんごっこをしていた。
- ☆ 自分たちのイメージするものになりきって遊んでいた。

想像力 自分を出す 伝え合う 人とかかわる楽しさ

- ◇ 友だちと一緒にヒーローやお母さんなどになりきって遊ぶ姿を見守るようにした。
- ◇ 遊んでいる中で、友だちと気持ちがぶつかり合う場面では、両者から話を聞くようにして一緒に楽しく遊びたいという気持ちを受け止めるようにした。
- 子どもたちが自分のなりたいものになりきって遊べるように必要な道具などを準備しておくようにした。
- 年長児の遊びを真似て、ジュース屋さんごっこを楽しめるように必要なものを準備しておくようにした。



私はお母さんになるね。  
○○ちゃんはお姉ちゃんね。

かっこいいポーズが決まった！



【梅雨期の自然に親しむ】

- ☆ アジサイやカエル、水たまりなどの梅雨期の自然に親しみ、遊びに取り入れようとしていた。
- ☆ 園庭に落ちているヤマモモなどの実を拾ったり、花を摘んだりしていた。
- ☆ 保育室の金魚にえさをあげたり、カブトムシやアゲハの幼虫などの生き物の成長を楽しみながら観察していた。
- ☆ 園庭にいる虫を探したり、見たり、捕まえたりしていた。

自然への親しみ 人とかかわる楽しさ 感動体験

- ◇ 園庭のアジサイを見たり、カエルを探したりしながら、梅雨期の自然を感じられるような言葉掛けをした。
- 子どもたちが取ってきたヤマモモを一緒に潰したり匂いをかいだりして楽しむようにした。
- ジュース屋さんごっこをしている子どもにヤマモモを持って行き、遊びが広がるように意識した。
- △ 捕まえたチョウのえさを一緒に探しながら、捕まえた喜びに共感し、生き物の命の大切さにも気付けるように工夫した。



ヤマモモを潰したら、血みみたい。

ジュース屋さんには使えるかな？

【積み木やブロックで遊ぶ】

- ☆ 近くにいる友だちと積み木やブロックを組み合わせて、自分のイメージしたものをつくって遊んでいた。
- ☆ 年長児に仲間に入れてもらって、一緒に迷路をつくったり、迷路を渡りながらジャンケンをしたりして遊んでいた。
- ☆ ブロックを使って友だちと一緒にイメージしたものをつくっていた。

想像力 創造力 自分を出す 伝え合う 人とかかわる楽しさ 満足感

- ◇ 同じクラスの友だちだけでなく、年長児と一緒に積み木を使って遊ぶ姿を見守り、保育者も一緒になって遊ぶようにした。
- 子どもが工夫してつくっている姿を認める言葉掛けや、積み木の並べ方や積み方など、安全に気を付けて遊べるような言葉掛けを工夫した。
- ブロックでは、形や大きさを考えていろいろなものをつくる姿を認める言葉掛けをするようにした。



みんなで迷路をつくったよ。  
先生も渡ってみて！



じゃんけんぽん！

【成果】

- 友だちがしている遊びを見て、自分も真似をしたり一緒にやってみようとしていたりする姿が見られた。友だちとのかかわりが多くなり、深まってきたことを実感することができた。
- ヤマモモを集めた子どもの遊びとジュースづくりをしている子どもの遊びをつなげることができた。
- 年長児の遊びを真似したり、年長児と一緒に遊んだりしていい刺激を受けていることが実感できた。

【課題】

- 色水づくりでは、絵の具や花紙以外にもヤマモモなどを潰して色水をつくって遊んでいた。今後も、季節に合わせて遊びに使える素材を見付けていくようにしたい。
- 子どもたちが「もの」とのかかわりを通して豊かな体験ができるように、今後も子どもたちの遊びの流れを大切にしながら「もの」の研究を深めていきたい。

【遊びの価値とつながり】

この時期の子どもたちは、友だちと一緒に好きな遊びを楽しみたいという願いをもっている。色水づくりでは、何度も繰り返すことで新しい発見をしたり、友だちの色を見て、真似してみようとして試行錯誤したりする楽しさを味わうことができる。また、年長児の遊ぶ姿を見てお店屋さんごっこなどを真似ようとする姿も見られるようになってきた。こうした遊びは、今後友だちと一緒にいろいろな遊びを楽しむ姿、好奇心をもって様々なものとかかわる姿へとつながっていくものである。



<p>【子どもの実態】</p> <p>年長組に進級したことに喜びを感じ、異年齢児に優しく声を掛けたり、片付けを手伝ったりするなど、積極的な姿が見られる。友だちと一緒に遊ぶことやイメージを共有することに楽しさを味わいながら過ごしている。</p>	<p>【ねらい】</p> <p>○ 身近な自然に興味や関心をもち、積極的にかかわって遊ぶ。</p> <p>○ 友だちと意思を出し合いながら、イメージしたものをつくる。</p>	<p>【内容】</p> <p>○ 友だちと一緒に様々なことに挑戦する面白さを味わう。</p> <p>○ 園庭の木々の様子や野菜の成長、梅雨の時期を感じながら、初夏の自然に親しむ。</p> <p>○ 自分の思っていることを話したり、友だちに聞いたりしてイメージを膨らませる。</p>
☆ 子どもの生活	※ 保育者の援助・環境構成の工夫（◇ 人とのかかわり □ ものとのかかわり △ 自然とのかかわり）	○ かかわりによって育まれる体験

【つくって遊ぶ】

- ☆ 空き箱やペットボトルを使って、自分のイメージに合わせてつくりたいものをつくっていた。
- ☆ 友だちがつくるものに刺激を受けながら、自分のつくりたいものをつくろうとしていた。
- ☆ 友だちや先生と一緒に折り紙でつくり方を見ながら折っていた。
- ☆ 自分のつくったものを使って、友だちと一緒に遊んでいた。

想像力 創造力 試行錯誤 他者理解 充実感 満足感

- 子どもたちが自分のイメージに合わせてつくりたいものをつくることできるように、必要な素材や用具などを子どもたちが使いやすい場所に用意しておいた。
- ◇ 友だちのよさに気づきながらつくる姿を認め、自分だけではできないところを友だち同士で手伝えるような言葉掛けをしたり、保育者が手伝ったりするようにした。

これとこれをくっつけて・・・

つくった道具でたたかうぞ。



【ごっこ遊びをする】

- ☆ ジュース屋さんを開き、友だちと一緒に必要なものをつくったり、用意したりした。
- ☆ 保育者や友だちをお客さんとして招き、自分たちが用意したものを使って遊んでいた。
- ☆ ままごとの道具を並べ、自分のなりたい役になりきって遊んでいた。

想像力 試行錯誤 充実感 他者理解 年長児としての自覚 伝え合い

- 子どもたちが楽しくごっこ遊びができるように、必要な道具や素材を用意しておいた。
- 自分のイメージに合わせて、ごっこ遊びが楽しめるように、子どもたちと遊びながら必要なものを一緒に考えるようにした。
- ◇ 友だちと遊びを楽しむ様子を見ながら、保育者もお客になるなどして遊びに加わり、一緒に遊びを楽しんだ。
- ◇ 異年齢児をお客として受け入れ、ジュースをあげたり、つくり方を教えたりする姿を大切に、やりとりがうまくできるように様子を見ながら言葉掛けするようにした。

ジュース屋さんだよ。

はい、どうぞ！



【成果】

- 晴れの日と雨の日の子どもの動きを予想して環境を整えておくことで、子どもの遊びに柔軟に対応することができた。
- 友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ時期にある年長児であることを踏まえ、子どもたちのやりとりを見守るところ、仲間になって遊ぶところなどを見極めることができた。
- ごっこ遊びの発達を見たとき、年中児は自分でつくって満足する姿が多く見られるが、年長児はつくったものを使ってお店屋さんを開こうとする姿が見られる。年長児が相手のことを考えることができる時期であることから、お店屋さんごっこが成立するということが分かった。
- 梅雨の時期ならではの遊びを楽しむ子どもの姿が見られ、子どもと一緒に自然とのかかわりの充実感を味わうことができた。（雨を集める、雨の音を聞く、雨の園庭を散歩しながらカタツムリを探すなど）

【環境構成】



【課題】

- 子どもが今、どのような発達の位置にいるのか（相手の気持ちを考えることができる、相手の気持ちを聞くことができるなど）を踏まえて、子どもたちが遊ぶ環境を整えていきたい。
- 友だちとの関係がなかなかもてずにいる子どもに対して、今後、どのようにまわりの友だちとつながっていくかを考えていきたい。
- 「もの」とかかわった体験から子どもが、「○○をこうすると、△△になるんだな」と因果関係を理解できる時期であることを踏まえ、子どもたちと一緒に様々な体験を通して、年長児の目指す自分らしさ（友だちと協力して遊びを工夫する、思ったこと感じたことを豊かに表現する、規範意識をもつなど）を発揮できるような保育に努めたい。

【大型積み木で遊ぶ】

- ☆ 大型積み木で友だちと一緒に自分たちのイメージを話し合いながら基地や船などをつくっていた。
- ☆ つくった基地や船に自分のつくったものを持ち込んで、友だちと一緒にごっこ遊びも楽しんでいた。

想像力 創造力 試行錯誤 他者理解 充実感 満足感

- 友だちと一緒にイメージを出し合いながらつくる姿を見守り、様子を見ながら加わり、つくったもののイメージを聞いたり、満足感に共感したりした。
- ◇ 友だちと一緒につくる楽しさを味わい、自分の思いを伝え合う姿を認めるような言葉掛けをするようにした。
- 安全面に気を付けるように、必要に応じて言葉掛けするようにした。

【自然と触れ合う】

- ☆ 保育室のアゲハチョウのサナギやスズムシ、カブトムシの様子を見たり、絵本を眺めたりしていた。
- ☆ 育てているミニトマトやピーマンの成長の様子に気付いていた。
- ☆ 雨の中傘を差して園庭へ出掛け、カタツムリを探していた。
- ☆ 雨をカップに集めて水が溜まったり、雨がはじけたりする様子を楽しんでいた。
- ☆ 雨だれの下に箱を置いて雨だれの音を楽しんでいた。

自然への慈しみ

感動体験

充実感



カタツムリどこかな？

雨の音に合わせてダンシング♪



- △ 生き物に興味をもって見たり触ったりする姿を大切に、一緒にその不思議さを感じたり、これからの成長を楽しみにしたりするようにした。
- △ 虫や野菜の成長に気づき言葉にする姿を大切に、さらに、野菜の匂いや花から実への変化にも気付くような言葉掛けをするようにした。
- △ 梅雨時期ならではの遊びを楽しむ姿を大切に、雨の日も楽しいことがいっぱいあると感じられるように一緒に雨とのかかわりを楽しんだ。

【遊びの価値とつながり】

この時期の子どもたちは、友だちと一緒に過ごす心地よさを感じている。そこで、お店屋さんごっこなどのごっこ遊びを通して、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを存分に味わえるようにしたいと考えた。

また、梅雨の時期であることを踏まえ、子どもたちの様々な自然との出会いを大切に、実際に見たり触れたりする中で自然の不思議さや面白さに気づき、大切にしようという気持ちを育んでいきたいと考え、保育を展開していった。

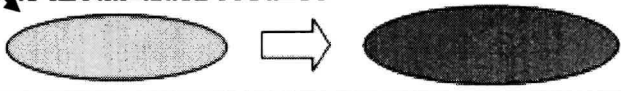
こうした遊びは、今後、友だちと協同して遊びを進めようとする姿や自然を慈しみ生命の尊さに気付く姿へとつながっていくものであると考える。

### (3) 事例研究から

子どもたちは、様々な「他」とのかかわりをもちながら生活している。その中でも、幼稚園生活における「もの」に着目して、今年度は事例を分析しながら研究を進めてきた。

下のような事例記録用紙を利用し、職員で留意点を確認しながら事例をまとめた。

<事例記録用紙>

対象		記録日 平成 年 月 日 ( )	
年齢	性別	対象	人
これまでの姿		子どもの姿	
かかわりによって育まれる体験		保育者の援助	
子どもの姿を会話や動きなどを交えながらまとめる。		子どもの姿に合わせて、保育者としてどのように援助したのかを述べる。	
これまでの姿における自分らしさが事例を通してどのように広がったのかが一目で分かるようにまとめる。		<input type="radio"/> 子どもの姿を保育者としてどのように捉えたのかを述べる。 <input type="radio"/> 自分らしさを発揮できる子どもを育てるために、これからの保育者の援助の在り方について考察する。 (網掛けは保育者として援助を工夫したことや保育者として大切にしたいこと)	
本事例から見られた口星の自分らしさの広がり 			

次からは、事例をもとに研究テーマに迫っていくために、以下の順で述べていく。

#### (ア) 子どもが「もの」とかかわる姿から

- ① 新しい「もの」と出会い、初めてかかわる姿
- ② 「もの」を遊びに取り入れながら、その特性に気付いていく姿
- ③ これまでの経験をもとに、「もの」の特性を生かして工夫して遊ぶ姿

#### (イ) 一人の子どもについての継続的記録